

ちょっとした工夫で
テント内は
オールシーズン快適!



2人でも余裕の空間

中型クラスのキャンピングカーかそれ以上の広さがあるベッドスペースは安眠を約束。テント内の高さも余裕たっぷりだ



扇風機で通気性アップ

白い小型扇風機はホームセンターで購入。冬はテント内で煮炊きすることもあるため、これを換気扇代わりに使えるよう検討中



防虫ネットで涼しく

出入り口に加え前後に設けられた三角窓にもメッシュカーテン（防虫ネット）が装着される。ここを開放することでテント内は通気性が確保される。テント生地も通気性をもつ



フードで防寒対策

オプションのフードはナイロン繊維にアルミ箔を接着したもの。防寒だけでなく太陽の日差しをガードする効果もあるという



フードを外し夏仕様

フードの着脱はマジックテープでスムーズ。通気性があるので夏でもクルマの中で寝るより涼しいとのこと



さらにテント内側にフリース生地/ビニールのレジャーシートを取り付けることで、かなり寒さが防げるとのこと。佐藤さんによると、この防寒対策をすることで外気温度が0℃のときでも、テント内は10℃ぐらいの温度に保てるというのだ。

「はじめのうちはテントで寝返りを打つと、クルマが揺れて怖かった」と奥さん。でも今ではルーフトントの使いやすさにすっかり満足の様子。「暑いときも寒いときも、車中泊よりずっと快適」とのこと。テント出入り口を開けておけば、メッシュカーテンから涼風が入り、寒いときは専用のウインターフード（オプション）を装着すれば有効な防寒対策になるという。

テントはクルマで寝るよりもずっと快適です

佐藤さん
スタイル

ルーフトントは寝るだけでなく
食事をしたりと楽しい空間!

**ちっちゃなラパンでもルーフトントがあれば
就寝定員はしっかり3名!**

佐藤さんご夫婦はお母さんも連れだって車中泊の旅行に出ることも。そんなときはお母さんがラパン、佐藤さんご夫婦はルーフトントで寝るというスタイルだ。決して広いとはいえないラパン。でも、就寝スペースはしっかり確保!

1 シート段差を解消



まずはフロントシートの背もたれを倒し、クッションを置いて座面と背もたれ間のシート段差を解消する

2 マットをセット



さらに小型のエアマット、クッションチェアを使って安眠のためのよりフラットなスペースを作り出す

3 低反発マットで仕上げ



ベッドメイクの仕上げは低反発マットを敷く。この低反発マットはアウトドア用品を扱うワイルド-1のオリジナルだ

4 ベッドの完成!



これでルーフトントを合わせれば、3名分のベッドスペースを確保することができる